

# 進路通信

廿日市中学校  
第12号  
10月05日(月)  
発行責任者 吉本邦治

## 公立選抜Ⅰと私立専願について

### 公立選抜Ⅰ

◎「選抜Ⅰ」は特別な対策の必要な受検である

選抜Ⅰは、「学力検査」ではなく「面接・小論文」による受検です。面接・小論文の内容での判定となり、要旨が明確な小論文が書けなければ合格は遠のくと言えます。そのため、冬休みから2月は面接・小論文の勉強が中心となり、5教科の勉強がおろそかになってしまいます。結果として合格できればよいのですが、もし不合格だったとき、2月から5教科の勉強を再び始めることになり、選抜Ⅰを受検せず5教科の勉強に取り組んできた生徒との差は広がっています。

また、不合格という結果に落ち込んで勉強に集中できなくなったという例も多いので、よく考えて一番よい受検方法を選んでほしいと思います。

◎「思い出受検」は危険である

「公立の第1志望の合格の可能性が低そうだけど、どうしてもあきらめきれないので、選抜Ⅰでひとまず受検して不合格ならあきらめて、選抜Ⅱでは公立の第2志望を受検したい」と考える生徒もいるかもしれませんが、これは、受検資格である「その高校を志望する動機が適切である」に反しています。

また、選抜Ⅱでも合格できる力を持った生徒が受検するのが選抜Ⅰですから、このようないわゆる「思い出受検」をして選抜Ⅰに合格した生徒はほとんどいないのが現実です。逆に、少ない定員である選抜Ⅰでは不合格でしたが、選抜Ⅱでは合格したという例は数多くあり、受検校を変えてしまうことが後悔につながる可能性もあります。

### 私立専願

◎「専願」は約束の上に成り立つ受験である

専願とは、公立に合格した場合は公立に入学しますが、私立ではその高校1校しか受験しません（公立が不合格の場合はその私立に入学します）という約束の上での受験です。合格した場合は入学手続き金（例：入学金21万円のうちの5万円）を支払う必要があります。この入学手続き金は、公立に合格してその私立に入学しない場合でも返金されません。

専願ではなく併願を希望する場合は、合格に対する基準がかなり高くなりますから注意が必要です。

どこを受験するのかだけでなく、どのような受験方法を選ぶのが自分に合っているのかについても、保護者の方としっかり話し合っておいてください。